

「中学校ランチボックス給食」の4年間を振り返って

田川市教育委員会 教育長 吉柳啓二

長年の念願だった中学校の「完全給食」が開始されて4年が過ぎました。小学校で自校式の出来たて熱々のおいしい給食を6年間食べてきた生徒たちから、福岡市で製造し、田川市まで運んで再加熱するランチボックス給食については、いろいろな意見がありました。しかし、給食委託業者の真摯な努力により、改善が図られ、「給食がおいしくなった」という声が多くなってきました。

先日、中学校給食担当の栄養教諭から「ランチボックス給食のよさ」について、次のような報告がありましたので紹介します。

○以前は、中学校の昼食の時間に行くと、弁当がないために食べていない子やコンビニ弁当やパン注文の菓子パンのみを食べたりする子がいましたが、今はすべての子が栄養バランスの取れたものを食べられるようになっています。



▲コロナ禍の中「おしゃべりがまん」でランチボックスを食べる生徒たち

○食品が傷みやすい時期のお弁当持参は大変です。夏は冷たく、冬は温かいものを食べることのできるランチボックスをありがたいと感じている保護者は多いと思います。

○給食の開始を機に栄養教諭を中心とした食育授業の充実が図られました。その内容として「中学生に必要な栄養」「食事と学力の関係」などがあります。また、ランチボックス給食ができるまでの様子や給食委託業者の料理長さんのインタビューの動画を使用した授業も行い、食べ残しが大幅に減った学校が出てきました。

○ランチボックス給食の開始によって「健康チェック」「準備・配膳・後片付け」など、給食時間の統一的な流れが出来たので、新中学校での「自校式給食」が開始されてもスムーズに実施できます。

私も、30年間小学校教師として、自校式の出来たて熱々のおいしい給食を食べてきたので、それと比べて、再加熱するランチボックス給食に対して、さまざまな意見が出ることは分かる気がします。しかし、心身ともに大きく成長する大切な時期に栄養バランスの取れた給食を3年間生徒たちが食べられることの意義は大きいと考えます。新中学校の給食が始まるまでの2年間「おいしくて栄養バランスの取れた給食づくり」と「食育の充実」に取り組んでいきたいと思っています。





第34回

「少年の主張」田川市大会



令和2年11月13日に田川青少年文化ホールで少年の主張田川市大会を開催しました。

この大会は、中学生に物事を考える力や広い視野を養ってもらう目的で行われ、今年で34回目の開催となりました。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から検温や消毒など感染予防を徹底するとともに参加者の規模を縮小し、関係者のみによる大

会となりました。

猪位金学園放送部の進行のもと、市内の各中学校から選ばれた代表者8人それぞれが自らの感動や悲しみなどの経験をもとに、自ら考え、今後の人生に生かしていく思いなどを自分の言葉で発表しました。また、弓削田中学校の二場^{ふたば}絢音^{あやね}さんと猪位金学園の伊藤^{いとう}陸^{りく}さんが優秀賞を受賞し、2月開催予定の田川地区大会に出場します。



▲市内中学校8校の代表者と猪位金学園放送部員



ブラインドサッカーを体験！



市内小学校4年生が総合学習の一環として、ブラインドサッカーを体験しました。運動を通して「見えない」を体験することで、恐怖心や生活における弊害について学びました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、実施できない学校もありましたが、九

州ブラインドサッカー協会の協力のもと市内6校で実施することができました。目が見えない中でのコミュニケーションの取り方やスポーツを通して、目の不自由な人の感覚を理解する貴重な体験となりました。



▲ボールもけてみたよ！



▲声や音を頼りに歩いてみました！

第10回 田川市中学校生徒会 サミット 開催

令和2年9月25日に田川市民会館で、第10回田川市中学校生徒会サミットを開催しました。

今回は、第9回で協議した「あいさつの充実」をテーマに、各学校で取り組んだ内容や成果・課題について意見を交わしました。また、立ち止まりあいさつを推進している東鷹高校の生徒会のみ



▲東鷹高校の生徒会からアドバイスをもらう生徒たち

なさんがアドバイザーとして参加。

各学校、コロナ禍の中で、思い描いたような活動ができなかったようですが、それでも、人数制限をしてあいさつ運動をしたり、立ち止まりあいさつの動画を作って全校生徒に紹介したりするなど、各学校の工夫したあいさつ運動が報告されました。多くの学校から「立ち止まりあいさつがなかなか広まらない」という課題を受け、東鷹高校の生徒会から「まずは3年生から確実に広めていってはどうか」と自校の実践をもとにした助言をいただきました。

生徒の振り返りでは「先輩方が貴重なアドバイスをたくさんしてくれたので、アドバイスをもとに活動していこうと思う」「これから他の学校に負けないようにあいさつ運動をがんばろうと思った」などの声があがりました。



一人1台のタブレットパソコンで 広がる「新しい学び」

令和3年1月に、市内小・中学校の全児童生徒数分のタブレットパソコン（3,933台※予備台数を含む）が導入されました。これは、国の補助金などを活用して購入したものです。

タブレットパソコンが導入されることで、デジタル教材を使って自分のペースでドリル学習をしたり、教室でインターネットを使って主体的に学習を進めたり、メール機能を使って仲間と考えや意見を伝え合ったり、毎日タイピングの練習をしたりするなど、これまで実現できなかった新たな学びが可能となります。

今後も、保護者や市民のみなさんのご理解とご協力のもと、情報化社会をたくましく生き抜く力を身に付けた子どもたちを育成する教育活動を積極的に進めていきます。



▲文房具の一つとして、どんどん活用していきます！

教えて！再編ススムくん



令和2年11月に新中学校の校名および制服の導入時期について、田川市新中学校開校準備協議会から教育長へ中間答申書が提出され、12月の教育委員会において下記のとおり審議・決定しました。なお、校名については市議会での関係条例の改正手続きを経たうえで、正式決定となります。

▶ 新中学校の校名 公募した校名の中から、協議会で候補を絞り教育委員会において校名を決定しました。

伊田中学校(旧校舎)の敷地に建設する新中学校 **田川市立田川東中学校**

後藤寺中学校の敷地に建設する新中学校 **田川市立田川西中学校**

▶ 新中学校の制服導入時期:令和4年4月(開校1年前)

令和2年7月に開催した制服展示会でのアンケート調査において、「新しい制服は当初の開校時期に導入してほしい」という意見が多く寄せられました。これを受け、協議会ではアンケート結果を尊重することとし、教育委員会において令和4年4月に導入することが決定しました。今後は制服デザインの検討を進め、令和3年夏ごろに決定する予定です。

校名募集および制服展示会アンケートにご協力いただきありがとうございました。現在「校歌のフレーズ」および「校章デザイン」の募集をしています。詳しくは「広報たがわ」28ページ(裏表紙)をご覧ください。

●学校再編に関する問い合わせ

田川市教育委員会 新中学校再編推進室 ☎85-7169



市ホームページ



ツイッター

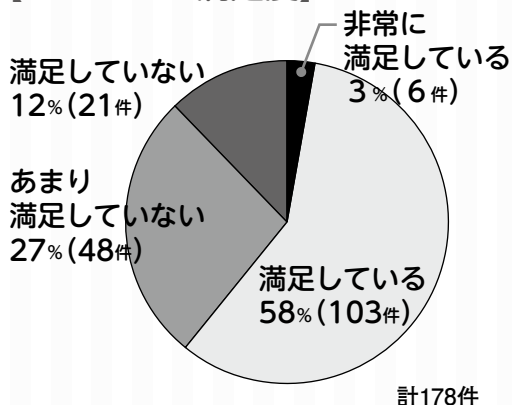
市ホームページやツイッターでは「田川市中学校再編推進だより」や中学校再編に関する情報を掲載しています。

GuRuMiの読者60%以上が「満足」

昨年「広報たがわ」をはじめとする市の広報活動に対する市民の満足度などについて、アンケート調査を行いました。ここでは、教育委員会だより「GuRuMi」に対する結果について報告します。

●対象：18歳以上の市民1,400人(※無作為抽出) ●期間：令和2年8月31日～9月25日

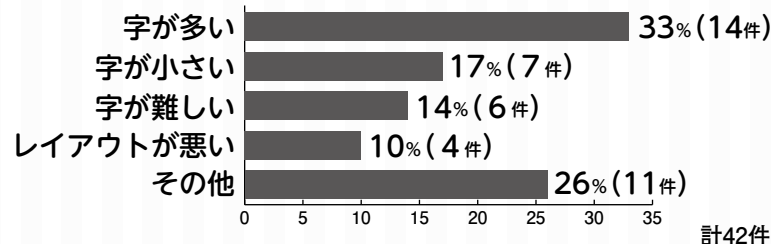
【GuRuMiの満足度】



【問題は「字の多さ」にあり】

満足していない理由として「GuRuMi」を読んだ人の3人に1人は「字が多い」と感じていることが分かりました。

●満足していない理由



これらの結果を踏まえ、今後の「GuRuMi」をより読みやすいものにしていきます。多くのみなさんに読んでいただき、もっと教育委員会のことを知ってもらえるよう努めていきます。